

予防業務優良事例表彰で消防庁長官賞を受賞

5月に行われた、第9回「予防業務優良事例表彰」(総務省消防庁主催)で、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部が消防庁長官賞を受賞しました。これは、四日市市消防本部(三重県)・北上地区消防組合消防本部(岩手県)とともに行った「半導体工場に関する消防行政実務研究会の発足」への取り組みが評価され、受賞に至ったものです。

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部予防課(☎271-0735)

自治体の垣根を超えて発足「半導体工場に関する消防行政実務研究会」 —ひたちなか・東海広域事務組合消防本部、四日市市消防本部、北上地区消防組合消防本部—

半導体は、スマートフォンや自動車、家電などの部品として使用されています。私たちの生活に欠かせない半導体は、製造過程で微細な異物が混入しないよう、クリーンな環境を維持するため、高圧ガス等を取り扱う半導体製造装置で作られます。この装置は、国際工業規格に準じた設備ですが、危険物を扱うにもかかわらず、消防法の基準とは一致していません。そのため、消防による火災予防指導が難しい現状があります。

全国的に半導体工場に関する規制の事例が少ない中、令和6年3月に半導体製造工場が立地する茨城県、岩手県、三重県の3つの消防本部が連携して、工場の火災予防対策や安全管理上の課題などを共有・検討する研究会を立ち上げました。研究会では、消防本部員だけではなく、時には半導体工場関係者を招き、火災予防対策の共有や意見交換を行うなど官民が協力して安全対策を講じています。

受賞報告会が行われました



6月23日にひたちなか市役所で行われた受賞報告会では、山田村長が「事業者の目線と予防行政の目線は違いますが、災害を起こさないという共通認識を持ってすり合わせていき、今後も頑張っていたきたい」と話しました。消防本部予防課の榎田恭平さんは「業務にまい進した結果、賞をいただけて非常に光栄です。皆さんが安心・安全に暮らせるよう、災害を未然に防ぐ予防業務に真摯に取り組んでいきたいです」と受賞の喜びと今後への意気込みを話してくれました。

戦後80年東海村戦没者追悼式

先の大戦において亡くなられた方々の御霊に追悼の意を表するとともに、恒久の平和を祈念するため、村戦没者追悼式を開催します。

当日は一般の方も参列いただけるほか、献花の機会も設けます。また、戦没者の遺品等を展示しますので、平和の尊さを感じるとともに、故人の人生や歴史に想いをはせてみませんか。

期日▼8月23日(土)

時間▼午前10時～11時30分(午前9時15分受け付け開始)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

定員▼100人

問い合わせ▼地域福祉課地域福祉・地域医療推進担当
(☎282-1711 内線1133)

